

# 東京農業大学の沿革

## 榎本武揚と横井時敬

創設者は、明治の英傑榎本武揚だ。明治政府で外相、文相、農商務相などの要職を歴任した榎本は、明治24年(1891)、東京に「私立育英黌」を設立した。その農業科が東京農学校、東京高等農学校と名を替えつつ、拡充の歴史を歩み、今日の東京農業大学となる。

東京農学校時代の明治28年、評議員として参画したのが、明治農学の第一人者横井時敬だった。「人物を畑に還す」「稲のことは稲にきけ、農業のことは農民にきけ」と唱えて、「実学」による教育の礎を築き、東京農業大学の初代学長を務めた。本学の「生みの親」は榎本、「育ての親」は横井である。

## 傘下に東京情報大学

東京農業大学は、農学部、応用生物科学部、地域環境科学部、国際食料情報学部、生物産業学部、短期大学部の6学部21学科からなり、大学院は2研究科19専攻体制が整っている。世田谷、厚木、オホーツク(北海道・網走)の3キャンパスに学生・院生ら約13,000人が学んでいる。

学校法人東京農業大学の傘下に、東京情報大学(千葉)がある。総合情報学部1学科、大学院1研究科で、学生・院生は約1,900人。傘下には、他に併設校として農大一高/中等部、同二高、同三高/附属中学がある。

学校法人東京農業大学戦略室

## 第12代学長に高野克己教授

大澤貫寿現学長の任期満了(2013年7月4日)に伴う学長選挙が6月4日に行われ、副学長の高野克己教授(応用生物科学部)が第12代の次期学長に決まった。学長選には3氏が立候補し、1回目の投票を経て決選投票で選出された。

学長就任は7月5日からで、任期は2017年7月4日までの4年間。東京農大短期大学部学長を兼任する。

### <新学長の略歴>たかの かつみ

1977年東京農大農学部農芸化学科を卒業。同大学院修士課程修了後、本学助手に採用。1985年農学博士。1998年に同応用生物科学部生物応用化学科教授。2008年同応用生物科学部長。2009年同大学・同短期大学部副学長(現在に至る)。専門分野は、食品化学、食品製造学。1953年東京都板橋区生まれ59歳。



### 東京農業大学歴代学長

初代	横井 時敬 (1911年～1927年)	第7代	平林 忠 (1971年～1975年)
第2代	吉川 祐輝 (1927年～1939年)	第8代	鈴木 隆雄 (1975年～1987年)
第3代	佐藤 寛次 (1939年～1955年)	第9代	松田藤四郎 (1987年～1999年)
第4代	千葉 三郎 (1955年～1959年)	第10代	進士五十八 (1999年～2005年)
第5代	三浦肆玖楼 (1959年～1961年)	第11代	大澤 貫寿 (2005年～2013年)
第6代	内藤 敬 (1961年～1971年)	第12代	高野 克己 (2013年～ )